

ご参加の前に
ぜひご一読ください！



生活困窮者自立支援全国ネットワークでは、随時、会員を募集しています。私たちと一緒に誰もが暮らしやすい社会づくりをしていきませんか？詳しくはホームページ (<https://life-poor-support-japan.net>) をご覧ください。

第9回

生活困窮者自立支援全国研究交流大会

多重不安の時代にあって生活困窮者自立支援制度と伴走型支援を問う

全体会 1 2022年 11月12日【土】 13:00～17:05

オンライン開催

大会ニュース1号

発行:2022年11月1日

第一部シンポジウム 13:10～15:00

「伴走型支援の現在そして可能性 多重不安の時代に 地域社会の根幹を支える」



パネラー

浦河べてるの家 理事／北海道医療大学 教授 向谷地生良
東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito.” センター長 野々村光子
日本福祉大学 教授 原田 正樹
文京区社会福祉協議会 地域福祉推進係 係長 浦田 愛

コーディネーター

生活困窮者自立支援全国ネットワーク 顧問 宮本 太郎
(中央大学法学部 教授)

今年も生活困窮者自立支援全国研究交流大会が始まります。

大会の皮切りとなる第一部シンポジウムでは、大会趣旨にも掲げた「多重不安」というべき時代において、根幹をなす生活困窮者自立支援制度を駆使して伴走型支援に取り組んでいる実践者にご登壇いただきます。

実践者の経験から、つながり、当事者に寄り添い、制度を駆使して当事者とともに目標へと向かうなかで、それぞれが展開される地域のなかの「場」の意義やあり方についても語り、深め合います。孤独や孤立を解消して地域共生社会へ向かう多様な支援のあり方を考えます。

(企画担当者：宮本太郎)

第二部シンポジウム 15:15～17:05

「生活保護制度と生活困窮者自立支援制度の新たな連携」

第二部シンポジウムでは、2021年10月からスタートした生活保護法と生活困窮者自立支援法の次期法改正に向けた検討のなかで大きくクローズアップされた両制度の連携のあり方を、一緒に考えていきたいと思います。

2021年に『生活保護解体論』を出版され注目を集めた岩田正美先生には、生活保護制度の本質的な問題等をお話いただきます。奥田知志代表理事には両制度の連携の現状と課題、米田隆史室長には両制度の連携に関する論点、池谷秀登先生には生活保護におけるケースワークのあり方をご発題いただき、それをふまえて、今後の新たな連携のあり方を展望していきます。皆さま、ぜひご参加ください。

(コーディネーター：新保美香)

パネラー

日本女子大学 名誉教授 岩田 正美
生活困窮者自立支援全国ネットワーク 代表理事 奥田 知志
厚生労働省 社会・援護局地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長 米田 隆史
立正大学社会福祉学部 教授 池谷 秀登

コーディネーター

生活困窮者自立支援全国ネットワーク 理事 新保 美香
(明治学院大学社会学部 教授)

